国際保全パートナーズ
UAPACAA
Unified Action for Promoting Animal Conservation in Asia and Africa
Famille Hayama 202
1461-136 Nagae, Hayama-machi, Miura-gun, Kanagawa 240-0113, Japan
Phone: +81(90)4010-5906　Email；admin@uapacaa.org
https://www.uapacaa.org/

２０２４　年　度　上　半　期（2024 年８月～2025 年１月）事　業　報　告

法人の名称　ＮＰＯ法人ＵＡＰＡＣＡＡ国際保全パートナーズ

＜ハイライト＞

・地球環境基金「ひろげる助成」による、コンゴ民主共和国（DRC）Mbali 地区のボノボ保護活動１年目。「ホロホロチョウの蓄養」及び「プロポリス養蜂」の導入を目指すため、現地法人を設立。
・並行して、JICS「NGO 支援」３年目、DRC プロジェクトの直接支援「Mbali 地区へのプロポリス養蜂導入フィージビリティ調査」の助成で、蜂蜜養蜂の拡大のための養蜂箱作成や　資機材整備を開始。
・1 月末に DRC 東部の M23 を巡る紛争が激化し、首都キンシャサでも暴動が発生。渡航自粛となった。
・ロベケ国立公園の初エコツアーは、大乾季でゴリラやゾウなど大型動物が観察でき満足度が高かった。
・2024 年 10 月４日に第８期第１回オンライン理事会を開催し、理事６人の出席（2 名は書面表決）を得て成立。２０２３年度（2023 年８月～2024 年７月）事業報告と決算に承認を得て通常総会に上程した。
・理事会の表決に従い、10 月 20 日より第８期みなし通常総会を開催し、正会員 15 人全員の賛成を得て、２０２３年度事業報告・決算報告が承認された。

＜事業活動方針にかかる報告（2024 年８月～2025 年１月分）＞

カメルーン、ブータン、およびコンゴ民主共和国（DRC）の連携先と自然保護プロジェクトを推進する。

「２　事業内容」に沿って、以下に報告する。

①　自然保護におけるポスト・コロナ対策事業

・ 感染症対策にも役立つプロポリス養蜂の、アフリカの現場への導入に向けた施策；出張で現状確認
  - ➢ カメルーンのロベケ国立公園周辺コミュニティの養蜂業整備
    - ✧ チャン大学研究所でのヒヤリングで、プロポリス精製にはハチミツ生産の多いコロニーを使う必要があるという情報を得て、まずはハチミツ養蜂振興の体制を整える（養蜂箱 100 個予定）。
  - ➢ DRC の Mbali 地区では、WWF DRC のコミュニティ支援ですでに養蜂業が導入されている
    - ✧ 3 村で 1 シーズン 20L のハチミツを生産するコロニーを育てており（プロポリス養蜂には、10L 以上のコロニーを利用）、各村に 5 個の養蜂箱を支給してハチミツ養蜂を強化する。
    - ✧ 地球環境基金「ひろげる助成」（670 万円）で、3 年計画で推進する予定だが、1 月末に発生した DRC 東部の紛争の拡大（キンシャサでも暴動が発生）を受け、情勢が不透明になっている。

②　アフリカ熱帯雨林の保全と野生動物保護支援に関する事業

ア　カメルーン共和国南東部州の大型類人猿と生物多様性の保全活動

１．ロベケ国立公園の大型類人猿エコツーリズム振興支援

２．ロベケ国立公園生物多様性モニタリング

３．国際武装集団によるゾウ密猟対策への支援

・2019 年のクラファンのリターンであった「ロベケ国立公園現地案内」（2020 年 5 月に予定）を、5 年の待機を経て実施した。ただし希望者 3 人のうち参加はお 1 人だった。現地滞在は 1 月 1 日～8 日で、プチ・サバンナで 17 頭のゴリラ・グループ、マルミミゾウ、ジャンギでヨウムとアオバト、バッファローなどの野生動物を観察した。次は夏に現地集合のエコツアーを試行し、継続性・収益性を検討する。
・8 年来の懸案であった、Djembe に繋がる林道（約 50km）の橋の修繕が開始され、4 月には開通する。この林道はゾウ・ゴリラ・バッファロー・ボンゴ等の大型野生動物の出現頻度が高く、新たなエコツアーメニュー開発の可能性が高まった。夏にゴリラの人づけについて、フィージビリティの確認を予定。
・WWF ロベケ技術アドバイザーと生物多様性モニタリング担当者（新任）と、当法人の担当地区であるポン・カッセから、プチ・サバンナのモニタリングをカバーする体制を検討。資金調達を目指す。
・プチ・サバンナの植生は、（大乾季で？）エレファントグラスが減少。カヤツリグサを利用するゴリラやシロクロコロブスなどが、再度、長時間に渡り利用していた。ゾウも警戒心の強いメスが利用を開始。

イ　コンゴ民主共和国（DRC）マイ・ンドンベ州ボロボ郡におけるボノボの保護活動

1. ボノボ生息域における生物多様性保全・再生にかかる研究と実践
2. ボノボ生息域に居住するコミュニティの地場産業開発を通じた生物多様性保全

・ Lekuwa グループの人づけは、フランス隊と MMT が共同する Lempo グループのエコツアーメニュー化を優先するため、継続しない。リアル・エコツアー募集は、1 月末の政情不安で当面行わない。
・ 2. の地場産業創設のため、コミュニティ実施チームと協働する現地 NPO 法人を設立支援。JFGE 助成金の了承を得て、DRC 政府農林省管轄として、キンシャサの弁護士に依頼して申請を進めている。
・ ホロホロチョウの蓄養導入に際し、繁殖用のペアの購入が現地でもキンシャサでも数が揃わず、値段が高騰する事態となっている。まとまった蓄養を行っていた業者の撤退が原因と考えられる。

③　南アジアの亜熱帯林保全と野生動物保護支援に関する事業

ア　ブータンの生物多様性保全、特に南部国境地帯を生息地とするアジアゾウ保護

１．TraMCA ランドスケープにおける人とアジアゾウの衝突回避に向けた支援

・ WWF ブータン代表、Conservation Director、Species Officer 全員が離職し、現状は協働が難しい。

<u>アフリカやアジアの生物多様性保全に関する情報発信を行い、国際保全活動の普及啓発に貢献する。</u>

・ 2024 年 6 月の取材を元に、8 月 12 日の「世界ゾウの日」、9 月 24 日の「世界ゴリラの日」に、約 5 分の動画を YouTube 配信した。「世界ゴリラの日」のクリップが 1,720 views と、注目を集めた。
・ 若手アシスタント（アフリカ人類学）とボランティア 2 人（獣医・芸術系）の持ち味を活かした、ホロホロチョウの蓄養に関する現地コミュニティ向け活動パンフレット完成。次は養蜂業編を作成する。
・ 【継続】アフリカ中部滞在中、ウェブアプリにアクセスできない、WiFi の細さで現地中継ができない、という広報上の弱点は、現地のオンライン人口増加と脆弱なインフラ問題でさらに深刻化している。
・ META（FB、IG、WhatsApp）及び X（旧 Twitter）が、Fact check を停止するなどモラル低下が懸念される。クラファンに重要な SNS だが今後の活用を検討したい（欧米は Blue Sky に移行している）。

＜その他の事業＞

①　書籍の出版・販売

海外出張も再開され、その対応に時間を取られるため、今年度は行っていない。

※　上半期予算進捗（2024 年 8 月～2025 年 1 月）に関して、中間決算報告書を添付する。　以上

国際保全パートナーズ
UAPACAA
Unified Action for Promoting Animal Conservation in Asia and Africa
Famille Hayama 202
1461-136 Nagae, Hayama-machi, Miura-gun, Kanagawa 240-0113, Japan
Phone: +81(90)4010-5906　Email ; admin@uapacaa.org
https://www.uapacaa.org/

２０２４　年　度　下　半　期（2025 年 2 月～2025 年 7 月）事　業　報　告

法人の名称　ＮＰＯ法人ＵＡＰＡＣＡＡ国際保全パートナーズ

＜ハイライト＞

・DRC の首都キンシャサで 1 月末に発生した政情不安は、その後、（東部情勢は予断を許さないが）沈静化に向かった。5 月～6 月に隣国コンゴ共和国経由で、現地視察と活動再興に向けた体制整備を行った。

・コンゴ民主共和国（DRC）Mbali 地区の持続可能な農村開発事業に対する、地球環境基金「ひろげる助成」（3 年間）の 2 年目は、650 万円で採択された。「ボノボ・エコツアー復興」は政情不安のため中断せざるを得ないが、「ホロホロチョウの蓄養」と「プロポリス養蜂の導入」に向けコミュニティ支援を継続する。

・DRC 対応優先の結果、「カメルーン・ロベケ国立公園マルミミゾウ保護支援」クラファン開始が 3 月に遅れた。4 月 18 日までの募集で 3,903 千円の支援があり、その他も含め年間寄附額は 1200 万円を超えた。

・上記クラファン支援金をベースに、2025 年 3 月末に 1 年間の支援を完了した、ロベケ国立公園ポン・カッセのガードポスト運営協力を更新。WWF カメルーンと 2026 年 3 月末までの覚書を締結。

・7 月 17 日に Zoom 理事会が理事 5 人出席で成立し、２０２５年度（2025 年 8 月～2026 年 7 月）事業計画と予算案を臨時総会に上程した。続くみなし臨時総会にて、正会員全員の賛成で承認された（7 月 30 日）。

＜事業活動方針にかかる報告（2025 年 2 月～2025 年 7 月分）＞

カメルーン、ブータン、およびコンゴ民主共和国（DRC）の連携先と自然保護プロジェクトを推進する。

「２　事業内容」に沿って、以下に報告する。

①　自然保護におけるポスト・コロナ対策事業

➢ ロベケ国立公園周辺コミュニティの養蜂業整備

✧ 1 月末の DRC 政情不安勃発のため、今年前半のアフリカ渡航計画が立たず、カメルーン現地視察は 7 月末まで遅延した。このため、ロベケ現地コミュニティへのハチミツ養蜂導入は、来期に開始する。

✧ 昨年度訪問した Dchang 大学付属研究所で、1000 個の養蜂箱を管理する技官の、ロベケへの出張研修計画も、7 月末からの現地出張中に検討する。

➢ DRC・Mbali 地区の養蜂業整備

✧ 政情沈静化後の 5～6 月に、キンシャサ大学農業経済科学部の Patrick Mafwila 教授と、研究協力協定について協議した。Mbali の養蜂興隆に向けたモニタリングや成分調査へ、学生派遣などで共同する。

✧ 6 月の現地視察では、Mbali 地区へ配布した養蜂箱（各村 5 個ずつ）は、Mpelu 村（1 個）Nkala 村 Embirima 村、Mbe 村、Ndowa 村（各 3 個）Bodzuna 村（2 個）と、全 8 村中 6 村で順調にコロニー定着に成功していた。7 月からのシーズンに採蜜開始が期待される。来期も養蜂箱追加を予定。

②　アフリカ熱帯雨林の保全と野生動物保護支援に関する事業

ア　カメルーン共和国南東部州の大型類人猿と生物多様性の保全活動

１．ロベケ国立公園の大型類人猿エコツーリズム振興支援

２．ロベケ国立公園生物多様性モニタリング

３．国際武装集団によるゾウ密猟対策への支援

・2 月に「モンベルクラブ・ファンド・チャレンジ支援プログラム」に応募し、テント 5 張とポンチョ 4 枚（約 23 万円相当）の支援が決定。7 月末からの現地視察に持参し、テント 3 張とポンチョを贈呈した。

・昨年度から当法人でボランティアを続けている、若手獣医師と芸術大学学生の 2 名のインターンを現地視察に同道した。各々WWF ロベケの担当者と協働し、「人獣共通感染症に対する地域防護対策手順策定」や地域コミュニティ対象の「夏休み子供自然教室」へ参画した（報告対象期間は次期）。

・国立公園当局に協力し、初めて日本からのエコツアー客の受け入れを、7 月末から補佐した（～8 月中旬）。

・上半期に確認した Djembe への林道整備は完了し、Mambele 事務所からランクルで 3～4 時間（約 120km）で到着できるようになり、国立公園南～東の国境沿いの密猟対策の効率が大幅に改善した。

・2013～14 年に確認したこの林道沿いのゴリラ・グループ人づけ可能性は、沿道の植生撹乱が残り判断は時期尚早だった。また道路開通によって密猟者も入り易くなった可能性もあり、対策強化を優先する。

・昨年 6 月は公園中で Mangu Sauvage（*Irvingia* spp.；野生マンゴー）が大豊作だったが、今期はまとまった実りは少なく、入れ替わり立ち替わり結実し、類人猿が細く長く（～9 月）利用していた（Pont Cassé）。

・プチ・サバンナの植生は昨年来エレファントグラスが優占しているが、カヤツリグサも下生えに広く残存し、ゴリラ・グループの出現頻度はあまり落ちていないことが確認された（ただし観察し難さは残る）。

イ　コンゴ民主共和国（DRC）マイ・ンドンベ州ボロボ郡におけるボノボの保護活動

１．ボノボ生息域における生物多様性保全・再生にかかる研究と実践

２．ボノボ生息域に居住するコミュニティの地場産業開発を通じた生物多様性保全

・１．はキンシャサの政情不安が先行き不透明なため、エコツアー・プロモーションは中断している。

・２．はホロホロチョウ蓄養拡大のため、5 月に第２弾のペアの移送・配布を行った。ただし今回もキンシャサで数が揃わず、Mbali の飼育数は予定の 1/5 以下に留まる。次の繁殖期（9 月～）に、近郊（Bolobo）で卵を仕入れる / 現地で野生卵を採集する などバックアップを行い、蓄養種の代替案も検討する。

③　南アジアの亜熱帯林保全と野生動物保護支援に関する事業

ア　ブータンの生物多様性保全、特に南部国境地帯を生息地とするアジアゾウ保護

１．TraMCA ランドスケープにおける人とアジアゾウの衝突回避に向けた支援

・アジアゾウ保護に向けた大型プロジェクトは資金調達が難しく、今期も具体的活動は開始できなかった。

<u>アフリカやアジアの生物多様性保全に関する情報発信を行い、国際保全活動の普及啓発に貢献する。</u>

・7 月中旬に当法人のウェブサイトアプリ（Weebly）の大幅料金改定の通知があり、アカウントエラーによってサブスクリプションが更新後の料金体系に移行できず、ウェブサイトがダウンする事案が発生した。カメルーン出張中だったこともあり解決に 2 カ月以上を要し、今後の利用継続の可否を検討している。

・世界情勢の不安定化に伴い、SNS 上も誤情報や外国人排斥等の過激なキャンペーンの拡散が相次ぎ、特にアフリカ関連の国際協力に関する情報発信が難しくなっている。AI による真偽不明な情報生成も加わり、活動報告などの公開方法に一層慎重にならざるを得ず、広報発信全般の方針を見直す必要がある。

＜その他の事業＞

①　書籍の出版・販売

海外出張頻度・期間の大幅増大に伴い公益事業に時間が取られ、今年度も行わなかった。

※　２０２４年度予算（2024 年 8 月～2025 年 7 月）の決算報告書と監査報告書を添付する。　以上